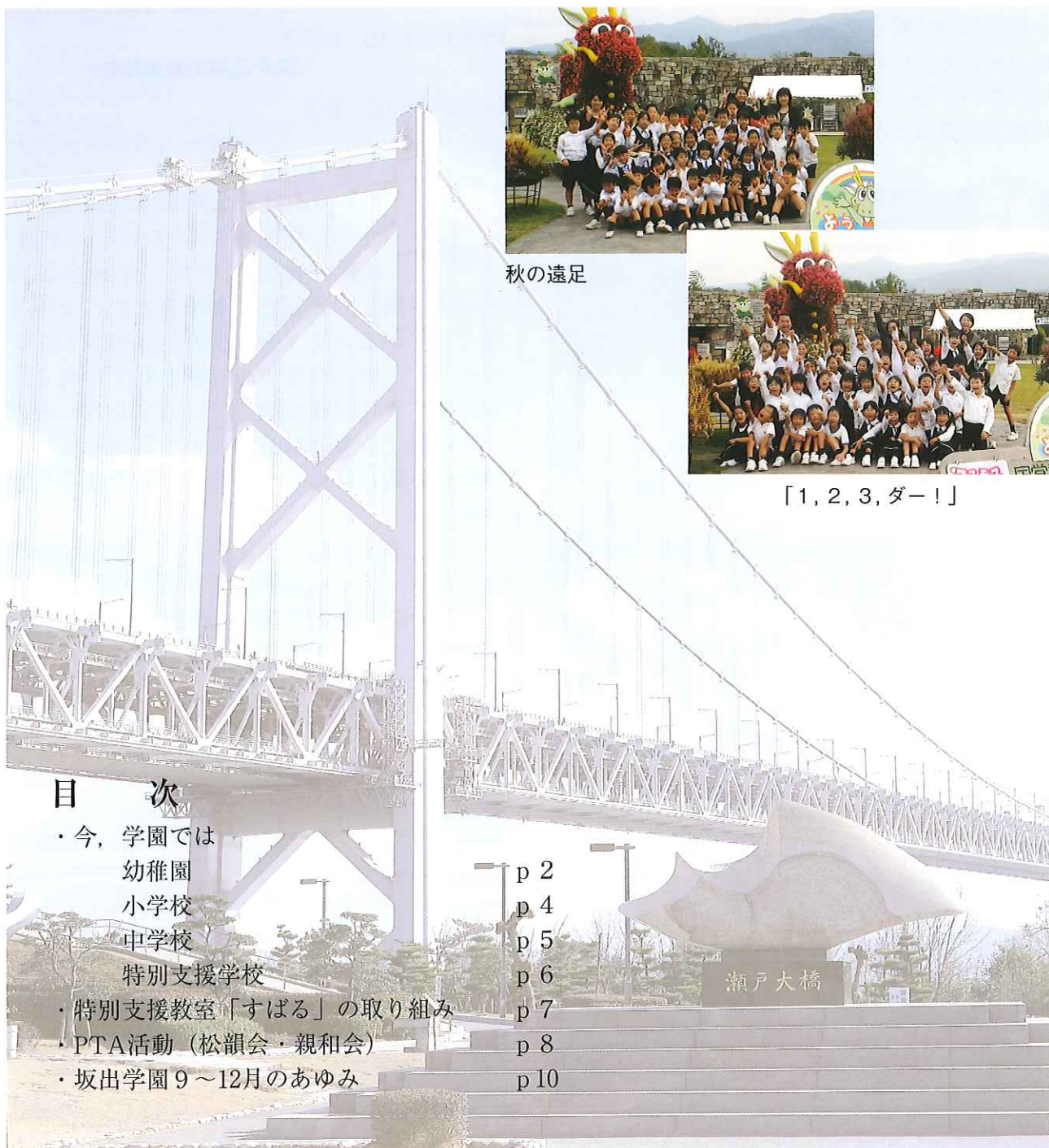


香川大学教育学部

# 附属坂出学園だより

第31号

2008.12



秋の遠足



「1, 2, 3, ダー！」

## 目次

- ・今、学園では
  - 幼稚園 p 2
  - 小学校 p 4
  - 中学校 p 5
  - 特別支援学校 p 6
- ・特別支援教室「すばる」の取り組み p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8
- ・坂出学園9～12月のあゆみ p 10

幼稚園研究発表会

研究  
主題

# 子どもの育ちを支える

～伝え合う喜びを実感できる環境・援助を探る～

10月31日、第54回附属幼稚園研究発表会を開催しました。県内外より250名の参会者をお招きし、盛会に終えることができました。

当日、秋空のもと、子どもたちの、友だちと思ひ思いに好きな遊びを楽しむ姿、思いや考えを伝え合いながら遊びを広げたり深めたりしていく姿、クラスみんなで集い楽しさを共有する姿などを参観していただきました。

《日程・内容》

- 9:00～11:00 **公開保育**  
～秋・友だちと過ごす生活～
- 11:15～12:20 **年齢別分科会**  
**協議テーマ**  
「伝え合う喜びを実感できる環境・援助を考える」
- 13:20～14:10 **全体会**  
～開会式, 研究経過報告～
- 14:30～16:00 **講演**



公開  
保育

～思い思いの  
遊び～

友だちと、  
思いや考えを  
伝え合って



～クラスみんなで  
集って～



分科会  
全体会

午前中は、公開保育に続き、年齢別分科会を行いました。今回、当日の保育の中で、分科会協議テーマに関して感じたことや考えたこと等を記入していただく「公開保育（分科会）アンケート」を参会の先生方に配布していたこともあり、より明確な視点で保育を見ていただけたと共に、各分科会において協議テーマに深く迫る話し合いがなされたりしたように思います。

また、午後からの全体会では、事例研究を深めたり、ティーム保育を見直したりする方法で行った具体的な研究の内容から、伝え合う喜びを実感できる環境・援助について提案しました。



〈年齢別分科会〉

## 研究の成果 ～伝え合う喜びを実感できる環境・援助とは～

子どもたちには、その時期その時期の「伝え合う喜びの実感」があるということを強く感じています。入園から卒園まで、それぞれの発達段階、個の育ち、集団の育ちにより、その時その時の伝え合う姿、伝わったという喜びの実感があり、それを積み重ねていくことが、一人ひとりの子どもの次の育ちにもつながるのだろうと考えました。

そのために教師は、それぞれの時期にふさわしいかわりをしながら充実した保育内容を展開し、子どもたちを支えていくことが大切であると考えます。

### 伝え合う喜びを 実感できる環境とは



また、個々の教師の資質向上と同時に、幼稚園全体で環境構成・援助をよりよいものにしていくとすることの大切さを考え、教師同士も「伝え合う喜び」を実感できるほど密に連携を取り合う関係性を築くことの大切さを改めて認識することができました。今後も、教師集団としてのさらなる資質向上も目指したいと考えています。

### 〈大切にしたい教師の援助〉

- 子どもの思いや表現をしっかりと受け止めていく
- 自分のイメージや思いが伝わることの嬉しさを子どもたちが感じられるよう支えていく
- 子どもたちが友だちのよさを感じられるように支援していく
- 友だちとイメージや考えを伝え合ったり工夫したり協力したりすることの楽しさや充実感を味わえるよう支えていく など



〈事例研究を深める〉  
～園外より先生方をお迎えして～

## 講演 演題「伝え合い・育ち合い」

東京成徳大学 神長美津子先生  
子ども学部教授

幼稚園教育要領の改訂など、幼稚園をめぐる様々な動きをふまえ、「伝え合い・育ち合う関係」を育てることの重要性についてたいへんわかりやすくお話をしてくださいました。

一人ひとりがその子らしく動くことができる雰囲気の中で、年齢や発達段階により「友だちとともに遊ぶことを楽しむ」「友だちと自分との違い（よさ）に気づく」「多くの友だちと遊ぶ」「友だちと知的なこだわりをもって遊ぶ」などの体験を積み重ねていくことが大切であり、それが義務教育、生涯教育へもつながっていく力となる（例えば遊びや生活の中で知恵を出し合う経験が、小中学校につながる思考力を育てることにもなる）ということ、具体例を挙げてご示唆いただきました。

ともに感じ、思い合い、考え合いながら、かわり合いを深め、新しい意味をつくり出す関係を育てる…。“協同”という視点で保育をつみ重ねていくことの大切さを改めて感じました。



## 「思考力」をはぐくむ学びの創造（3年次）

—脳神経科学研究との連携から新しい時代の学びにせまる—

附属坂出小学校では、来る1月29日(木)、30日(金)に行われる第92回教育研究発表会に向け、これまでの研究のまとめと本研究会で公開する授業の指導案づくりに取り組んでおります。

本年度の授業づくりにおける柱は、「思考力」育成の鍵を握る思考様式（思考に関する手続き的な知識）を子ども自身が自覚すること、つまり「思考力」の育成に向けて、メタ認知からのアプローチを試みています。身に付けさせたい思考様式とはどのようなものか？それを自覚するためにどのような支援を行えばよいのか？こうした視点から授業を重ね、研究を進めてまいりました。

以下に、これまでに実践しました授業の一端をご紹介します。

### 研究授業

#### 1年 国語科

「どうぶつのからだのひみつを  
みつげよう」  
金崎 知子

言語経験が少ない1年生にとって、書かれたことばや文、文章の内容をより具体的に捉えるために大切な役割を果たすのが、挿絵や写真等の視覚的情報です。それらは教材の理解を助けるとともに、子どもたちの想像を広げることができます。実際に子どもたちは、文章と、写真から得られる視覚的な情報やそこから具体的に想像したことをつなぎながら書かれている内容を読み取ろうとします。しかし、それらは頭の中にぼんやりとかんざり、話し合いの中で表現されたりしたものであるため、消えてしまうことが多いのです。そこで「写真から分かることや考えたこと、想像したことなどを文字情報として書き加える学習」を通して、「書かれていることと写真をつなぐ」という思考様式を把持させ、書かれている事柄を経験と結び付けながら具体的に捉える力を身に付けさせたいと考えました。



実際の授業では、「鼻を上手に使う、えさを食べたり水を浴びたりする」を象の鼻の便利さと捉えた子どもたちは、「上手に」ではなく、「長さ」と関係付けながら「長いホースみたいな鼻だから遠くのえさでも取れる。」「長いから体中に水がかかる。」と付箋紙に書き込んでいきました。そこで、書いた事柄を交流する中で、「鼻の先をくると曲げて振っているから、近くでも遠くでも水がかげられる。」という発言を取り上げ、その様子を動作化させました。子どもたちは、その様子から鼻を工夫して動かしていることを見つけました。そして、「工夫していることが分かることばは？」という問いかけに、「上手に」という表現に目を付け、さらにその動きを具体的に捉えていきました。

実際の授業では、新しいリズムに合わせ、自分の動きを全身図に書き込みながら踊りをつくっていきました。そして、できた踊りを友達に見てもらい、「まだ使っていないところがあるよ。」「もっと動きが増やせそうだ。」と自分の課題に気づき、再度全身図を使って、自分の動きを考えていきました。「今までは、手や足を振るだけだったけれど、使っていなかった腰の動きも増やせたよ。」というように、全身を使った踊りをつくることができました。

#### 2年 体育科

「リズムにのってあそぼう」  
北村 篤子

子どもたちは、リズムに乗って全身で踊るリズム遊びを通して、様々な動きを体験していきます。その際、「私は、全身を動かしている！」と思っても、実際は使えていない部位があり、動きが単調になっていることがありました。自分がどんな動きをしているのかをあまり意識しておらず、また、その動きも跡に残っていなかったため認識することも難しかったのです。そこで、「自分の全身図に動きを書き残しながら踊りをつくる学習」を提案しました。見つけた動きと全身図を結び付けることで、体のどこを使ってどんな動きができていたかが視覚的に残り、全身を使って踊ることができ、動きを書き込めていない部分を再度見直したり、友達の意見を聞いたりして、全身図に動きを書き足していくのです。このようなメタ認知的活動を通して、「全身を使って踊るための動きを選んだり、見出したりする」という「思考力」を育成する際に必要となる「体で使っていないところの動きを見つける」という思考様式の長期把持をねらいました。

実際の授業では、新しいリズムに合わせ、自分の動きを全身図に書き込みながら踊りをつくっていきました。そして、できた踊りを友達に見てもらい、「まだ使っていないところがあるよ。」「もっと動きが増やせそうだ。」と自分の課題に気づき、再度全身図を使って、自分の動きを考えていきました。「今までは、手や足を振るだけだったけれど、使っていなかった腰の動きも増やせたよ。」というように、全身を使った踊りをつくることができました。



# 平成20年度文化祭「附中元気村」

## テーマ「ADVANCE～前進～」

11月22日(土)の午後、生徒たちが主体となって企画・運営をする附中元気村が開催されました。今年度は「ADVANCE～前進～」をテーマに、当日に向けて準備や練習を積み重ねてきた成果を多くの人にアピールすることができました。

今年も附中元気村では「村役場」という組織を設け、生徒が主体となり、伝統的な附中文化をさらに発展させようと何度も話し合いの場を設けて準備をしてきました。そして、学級や学年団、部活動などをユニットとした15種類のステージ企画発表と13種類の教室等での企画発表を行うことができました。それぞれ個性あふれる素晴らしい発表ばかりで、会場と一体となり大いに盛り上がった企画発表となりました。どれも毎日、放課後や昼休みの限られた時間を利用して、精一杯創り上げたものばかりでした。

### 各企画の紹介

#### 体育館ステージでの企画発表

##### 前半

- [大池田羽森]
- [タッチ]
- [8娘1]
- [KF8]
- [恋空]
- [帰ってきた☆SOS団]
- [アラジンof all mans]
- [TRASH]



ステージ前半は生徒有志による発表!!!

##### 後半

- [吹奏楽部演奏]..... 吹奏楽部
- [それでも彼はやっていない]..... 3-2
- [崖の上のポニョ]..... 3-1
- [走れカツオ]..... 3-3
- [Bon courage! Pierre] ..... 選択英語
- [附中ソーラン節]..... 2年団
- [ちょいす PE 999]..... 選択体育



#### 教室等での企画発表

- [門(アーチ)]..... 3-3
- [文字でいざなう夢の世界]..... 文芸部
- [行列のできてほしい理科実験室]..... 理科部
- [クッキーと作品発表]..... 家庭科部
- [美術作品の展覧会]..... 美術部
- [和(なごみ)]..... 茶道部
- [flower time]..... 生花部
- [社会科のススメ]..... 社会科部
- [技術科作品展示]..... 夏休み生徒作品
- [家庭科作品展示]..... 夏休み生徒作品
- [1年団展示&掲示]..... 1年団
- [2年団展示&掲示]..... 2年団
- [3年団展示&掲示]..... 3年団

## 公開授業で授業力アップに取り組む

本年度は、本校職員の授業力および専門性の向上をめざすとともに、特別支援教育のセンター的役割の一つとして、参観の方々とともに授業改善について考える機会としたいということで、公開授業研究会を行っています。1回目の授業後に改善点について話し合い、改善後の授業を公開しています。年間3回の公開授業研究会を予定しており、6月と9月には、県内の養護学校、幼・小・中学校、香川県教育センター、香川大学などからご参加いただき、香川大学教育学部特別支援教育講座の先生方のご指導も得て、充実した研修となりました。次回は2月7日(土)に行います。

### 中学部では…

集団での学びを大切にしており、生徒たちに、集団の中で周囲と折り合いをつけながら、自分の思いや願いを適切に伝え、実現していける力を身に付けてほしいと考えています。

そこで、今年度より「パワーアップタイム」という課題学習の授業を新たに設けて、コミュニケーションや社会性に関する知識や技能の習得をねらっています。一人一人の課題に配慮した6つのグループ編制の工夫や、教師



間の連動力を生かした効果的な支援方法、興味関心を大切にした教材作り等に試行錯誤しながら取り組んでいるところです。9月の公開授業では、子どもたちが好きなジュース作りをとおして、ていねいな話型の大切さを重点化した指導法を提案しました。他のグループも、感情理解の第一歩を歩めた生徒、相手意識をもってゲームに参加できるようになった生徒など、着実にパワーアップしている様子が見えがえします。

### 小学部では…

6月に、図工の授業を公開しました。小麦粉絵の具を使って手で描くことで、子どもたちの表現意欲を高めたいと考えて取り組みました。改善案を検討し、教材提示の仕方や環境設定等について見直したところ、より主体的に描こうとする姿が見られました。

9月には、「ことば・かず」の授業を行いました。参観者の方々からは、「改善のポイントとして提起



していた部分については、成果が表れていた」とのご意見をいただきました。また、新たに様々な観点から今後に生かせるご示唆をいただき、有意義な研修となりました。

### 高等部では…

今年度から教育課程のなかに「暮らし」という教科を新設して取り組みを行っています。「暮らし」では、実際の生活に必要な内容についての基本的な知識や方法を習得することをねらいとしています。そして、ここで身につけた知識を、ライフスキル（日常生活の指導）の時間等で定着を図り、将来の生活に活かしていこうと考えています。

9月に「暮らし」の授業「快適な衣生活～すてきにコーディネート」を公開しました。様々な服の中から通勤にふさわしい服装を考え、実際にコーディネートし、みんなの前で発表する機会をもちました。今後も卒業後の生活で必要と思われる内容を取り上げていきたいと考えています。



## 第2回 香川大学教育学部特別支援教育研究大会開催

第2回香川大学教育学部特別支援教育研究大会が、香川大学教育学部と香川県教育委員会との共催で平成20年8月7日(木)に香川大学講堂及び教育学部各教室を会場に開催されました。ここでは、「連携・一貫性のある特別支援教育をめざして」のテーマのもとに、特別支援教室「すばる」での実践研究の成果を公開すると共に、香川県下の特別支援教育の取り組みの現状を協議し、交流を深めました。



開会式では、大会実行委員長の新見学部長の挨拶の後、香川県教育委員会の大金教育次長様のご挨拶、一井学長の祝辞をいただきました。

全体講演会では、特別支援教室長の繪内教育学部教授が、「特別支援教育を香川に」のテーマのもとに講演を行いました。

午後からは、以下の8つの分科会に分かれ、研究協議を行いました。

A 《特別支援教育を推進し定着させるためには》

B 《就学前における支援のあり方を探る》

C 《附属特別支援学校のセンター的役割》

D 《言語的能力の発達レベルチェックテストの開発》

E 《地域における各専門機関と学校園とのネットワークづくり》

F 《学校園における年齢段階を考慮した社会性の指導のための実態把握の試み》

G 《高等学校における取り組み》

H 《数概念の発達レベルチェックテストの開発》

県内を中心に教育関係者ならびに一般の方々580名の参加をえて、より一層の特別支援教育の進展に関する討議が行われ、意義ある大会となりました。



## 幼稚園より

## ウェンディの会

11月18日、「救急実技講習会」が、坂出消防署の協力により開催されました。参加されたお母さん方は、心肺蘇生法やAEDの使い方など、救急救命の基礎的な知識を学び、終了時には修了証を受け取りました。もしもの時は、この日の講習会を思い出して落ち着いた行動がとれるのではないのでしょうか。



## 土曜メンテナンス

10月24日、肌寒い中、お父さんやおじいちゃん方に参加していただき、土壌整備や庭の剪定をしてくださいました。子どもたちはきれいになった園庭で、木登りなどをして元気に遊んでいます。



## ソフトバレーボール大会・ソフトボール大会で大活躍！

11月16日、「香川県公立幼稚園ソフトバレーボール大会」が行われ、女性青組チームが準優勝、男女ミックスチームが3位となりました。また、11月23日の「坂出市PTAソフトボール大会」でも準優勝となりました。日頃の練習の成果を発揮し、素晴らしい成績をおさめました。

## 小学校より

## 四附連親睦球技大会

7月27日に四附連親睦球技大会が鳴門にて行われました。お父さんはソフトボールで2チーム、お母さんはバレーボールで1チーム参加しました。非常に暑い中での大会でしたが、お父さん・お母さん共に善戦し、各校園とも親睦を深めてきました。

## まなとピア

11月9日に坂出駅前にて、「2008さかいで まなとピアフェスティバル」開催会されました。市内の他校のPTAの方と共に練習を重ね、素晴らしい歌声を披露して下さいました。全5曲を歌い寒い中ではありましたが、暖かい拍手が起こっていました。



## 土曜クラブ

11月15日に土曜クラブを開催しました。今年も、11月22日から坂出駅前にて点灯される、光輝里フェスティバルへ展示する作品を作成しました。図工室と家庭科室にて製作し、素晴らしい作品が出来ました。皆さんも、ぜひ子供たちの作品を見てください。



## ソフトボール大会

11月23日にトクヤマグランドにて、坂出市PTAソフトボール大会が開催されました。雨のため、1週間延期された大会でしたが、当日は素晴らしい天候にも恵まれました。お父さん・お母さん・先生のチームワークのおかげで、Aチームが準優勝を果たしました。





## 中学校より

去る10月22日(水)、高知大学附属中学校PTAの方々が、わが附属坂出中の授業を参観しました。そのあと保護者同士の交流会が、なごやかにおこなわれました。日頃から悩んでいることや聞きたいことなど短い時間では、語りつくせませんでした。四国四県の中でも附属中のあり方は、さまざまで、いろいろ問題を抱えていることがわかりました。

11月24日(月)には、第2回のPTA研修旅行で高知へ行ってきました。伊野の紙すき体験や坂本龍馬記念館で龍馬の功績を研修し、さらに高知附属中PTAのお勧めのお店などをめぐることができました。保護者と先生方との会話ははずみ有意義な一日となりました。今後とも顔の見えるPTA活動めざし努力していきたいと考えています。



## 特別支援学校より



## 子どもたちの 未来のために

9月8日に、毎年恒例となっている施設見学に行きました。この行事は、卒業生親の会の方も一緒に参加してくださり、子どもの現在や将来の夢など、いろいろと考え話し合える場になっています。

今年も、知的障害者授産施設「竜雲あけぼの学園」(仏生山町)と社会福祉法人あゆみの会「あゆみ園」(勅使町)を見学させていただきました。

両施設とも作業をしている様子を見学することができ、また「竜雲あけぼの学園」ではグルー

プホームのことなど、丁寧に説明をしていただきました。作業場では、うどん屋、喫茶店、陶芸など、利用者の方それぞれの特性を生かした作業が行われており、生き生きと作業をしている姿がとても印象的でした。

卒業目前の高等部の保護者はもちろん、小・中学部の保護者や、卒業生親の会の方々も熱心に質問し、係りの方の話に聞き入っていました。子どもたちや親たちの将来を考えていくよい機会になりました。



運動会(9月20日)

坂出学園の秋季大運動会が9月20日に行われました。今年の中学校のマスゲームのテーマは「電光石火」で、I場：雷～electory～(1～3年男子)Ⅱ場：光～light～(1～3年女子)Ⅲ場：石～rock～(3年)Ⅳ場：火～fire～(全員)の4部で構成されていました。すべてが生徒による創作であり、練習もマスゲームリーダーを中心に生徒たちの手で行われていたため、最後のピラミッドが完成したときには、大きな歓声があがり、全員で感動を伝え合うことができました。



フィールドワーク(10月8日)

総合学習「まんでがん」のフィールドワークが10月8日に行われました。1年生は3コース、2・3年生は6コースあります。1年生3コース「私は未来のエネルギー社会を拓く提言者」は、番の州の四国電力火力発電所に行って、施設内をバスで見学させてもらったり、制御室で説明を受けたり、電気エネルギーについての知識を深めることができました。また、2・3年生のCコース「共生社会に生きる」は、四国学院大学を訪問し、多くの外国人の方々と交流しながら、楽しい時間を過ごし、共生社会についてしっかり考えることができました。



中学校

夏休み作品展

9月4日、絵画、書写、工作、自由研究、作文、学習ドリル等、全校生の夏休みの頑張りの成果である作品を自分の教室に展示し、保護者にも案内しました。クラスの友達や自分の素晴らしさを再確認するだけでなく、上学年の作品に驚いたり、下学年の作品に感心したりする姿が見られました。



こども将棋教室

9月26日、「JT将棋日本シリーズ こども大会/プロ公式戦」の事前企画である「こども将棋教室」が5年生を対象に開催されました。近藤正和六段と古河彩子女流二段の2名の講師がルールや対戦時の礼儀を分かりやすく説明し教えてくださいました。初めての子も将棋に興味をもち、休み時間に楽しく対戦する姿が増えました。

小学校

特別支援学校

和気あいあい ふれあい祭り

附属特別支援学校恒例の「ふれあい祭り」が、11月23日に盛大に開催されました。

今年は、親和会、地域の企業や作業所のご協力で、充実したパンフレットができあがり、ご来校の方々に喜んでいただきました。また、ふれあい祭りの「のぼり」もご寄付により新調され、府中駅周辺から学校までの道筋を華やかに飾りました。

日ごろ温かく見守ってくださっている地域の

方々、親和会、卒業生、交流校の府中小、附属坂出中、坂出工業高校の皆さん方とともに、ふれあいのイベントを楽しみ、和気あいあいとした雰囲気の中ですごせた一日でした。

香大附属特別支援学校  
ふれあい祭り



幼稚園

わくわく小学校体験

11月、附属坂出小学校の先生が幼稚園にやってきて、5歳児青組の子どもたちと一緒にいろいろな活動をしました。

10日(月) 「ことばであそぼう」	金崎先生と一緒に
11日(火) 「あきであそぼう」	福家先生と一緒に
14日(金) 「身体をつかってあそぼう」	北村先生と一緒に
「かずであそぼう」	大山先生と一緒に



子どもたちは、ちょっと緊張もしましたが、大丈夫。小学校の先生に親しみをもったり、小学校への期待や憧れの気持ちを膨らませたりしていました。次回(2月)は、小学校に行く予定です。

中学生と一緒に

附属坂出中学校の保育参加(11月4日～6日)は、7月に引き続いて2度目です。一緒に遊ぶことはとても楽しい様子で、困ったことがあっても、「どうしようか」と一緒に考えたりアイデアを出し合ったりしながら、自分たちで遊びを進めていく姿が多く見られました。中学生からも「前回よりずいぶん成長していてびっくり」という感想が…。幼中相互に、少し年の離れた人とかがわる貴重な体験となりました。



編集後記

9～12月は、各校園とも行事が目白押しでした。教育実習、坂出学園運動会、教育文化祭、附小フェスタ、附中文化祭、ふれあい祭り等々。中でも、10月の第54回附幼研究発表会は、県内外からたくさんの方の参加者をお迎えし、「人とかかわり」に視点を当てた実践提案を行い盛會に終えることができました。

小学校では、道路拡張工事が終わりました。運動場が東側、南側で少し狭くなりましたが、見通しのよくなった運動場で児童は元気よく過ごしています。

今年も保護者の皆様ならびに関係機関の皆様には、いろいろとご支援・ご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

発行年月日：2008年12月17日

発行事務局：附属坂出小学校内

佐藤 美芽 (附属幼稚園)

横山 新二 三宅 永哲 (附属坂出小学校)

環 修 木谷 直充 (附属坂出中学校)

武田 光弘 榎尾由美子 (附属特別支援学校)